

スクリプトが再生する既存のスタティック ノイズに追加された新しい Wave プロンプト

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントでは、スクリプトに追加された WAVE プロンプトにより Cisco IP Contact Center (IPCC) Express Edition 環境で静的ノイズが発生する原因の 1 つについて説明します。

[前提条件](#)

[要件](#)

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco CallManager
- Cisco IPCC Express版
- Wave ファイルの概要

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco IPCC Express版

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

Cisco スクリプト アプリケーションはこれらの機能を行います:

- レシーブ コール
- プレイバック プロンプト
- レシーブ 発信者 入力
- キュー コール

多くのアプリケーションは情報を提供し、発信者の応答を引き出すために発信者に戻ってされる .wav ファイルとして保存される記録済みプロンプトを利用します。

プロンプトは発信者に戻って Cisco カスタマ 応答ソリューション (CRS) サーバ演劇そのメッセージです。発信者の応答を引き出す頻繁の Cisco スクリプト アプリケーション使用プロンプトに従って Cisco CRS サーバはコールを転送し、アカウント情報を受け取り、他の機能を行うことができます。

記録済みプロンプトは Wave ファイル (.wav) として保存されます。Wave ファイル ファイル形式はオーディオのいろいろなビット解決、サンプルレートおよびチャンネルをサポートします。ただし、CRS サーバは 1 つの形式だけ、CCITT u-law、8kHz、8ビットの、モノラル 7 kb/sec サポートします。これらのファイルを保存するためにフォルダを作成して下さい。アメリカ 英語のためのデフォルトのロケーションは次のとおりです:

```
c:\Program Files\wfavvid\Prompts\User\en_US
```

問題

既に存在して、CRS スクリプトを通してスタティックをすること新しいウェーブ プロンプトがスクリプトに追加される時。ただし、同じ Windows Media Player が同じようなアプリケーションによってべきであるように敏速な音を振ります。

解決策

根本的な原因は CRS サーバによって記録される形式サポートされません。CRS サーバは CCITT u-law を除く他のどの形式も、8kHz、8ビットの、モノラル 7 kb/sec サポートしません。

新しく敏速な Wave ファイルが CCITT u-law に、8kHz、8ビットの、モノラル 7 kb/sec 変換されれば、静的なノイズ問題は固定です。

注: Cisco Unified Contact Center Express はいつでも利用できるクラスタのノード間のプロンプトおよび文書を同期するためにリポジトリ データストアを使用します。Node Manager 再始動で、データはリポジトリ データストアとローカル ファイル システムの間で確認されます。どのデータでもこれらのディレクトリからリポジトリ データストアを一致する取除かれます。に回避策この問題これらのプロンプトを敏速なりポジトリ 手動でアップロードできます。

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)